

令和 5 年 6 月 3 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K02886

研究課題名(和文) 中国の古典教育における関連教材の研究 日本の漢文教育への応用のために

研究課題名(英文) A study of related teaching materials in Chinese classics education : For Application to classical Chinese education in Japa

研究代表者

土屋 聡 (Tsuchiya, Satoshi)

岡山大学・教育学域・准教授

研究者番号：20432891

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本の漢文教育に最適化された関連教材(例えば同じ作者の他の作品、異なる作者の類似作品、後世の批評や注釈など)を開発するものである。特に、中国における古典教育との比較という観点を導入し、その先進性や柔軟性を取り入れた点に特色がある。また、言語教育としての漢文学習という観点から、新しい科目である「言語文化」の教科書に対する評価を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

関連教材自体を対象とする研究は、いわゆる教科書教材の研究に比べると、日中を問わずまだまだ少ない。しかし、新「学習指導要領」(平成30年告示)では、古典の特性として「他の作品」との関係の中で作品を理解する必要性が明示されている。関連教材の研究とはまさにこの点に関わる研究であり、本研究では関連教材が学習者の主体的・対話的な漢文学習にどのように寄与するか、そのメカニズムを明らかにするという成果をあげた。また、漢文が持つ言語教育としての側面に注目し、新科目「言語文化」のあり方についても考察を加えた。これらの成果は、内外の学界に対してタイムリーに知見を提供するものである。

研究成果の概要(英文)： This research aims to develop related teaching materials (e.g. other works by the same author, similar works by different authors, criticisms and commentaries, etc.) optimized for classical Chinese education in Japan. In particular, it is characterized by introducing a perspective of comparison with classical education in China and incorporating its innovation and flexibility. In addition, from the viewpoint of Chinese learning as language education, We tried to evaluate the textbook of "language culture".

研究分野：中国文学

キーワード：漢文教育 関連教材 『語文』 言語文化

1. 研究開始当初の背景

近年、日本ではアクティブラーニングの視点に立った授業改善が求められ、古典教育においても様々な試行錯誤がくり返されている。また、新しい「高等学校学習指導要領」(平成30年告示。以下、「学習指導要領」と称す)とそれに基づく科目の新設(「言語文化」「古典探究」)など、古典教育をめぐる状況が大きく変わろうとしている。ところで、中華人民共和国の古典教育では教科書教材とともに豊富な関連教材(例えば同じ作者の他の作品、異なる作者の類似作品、後世の批評や注釈など)を利用した探究・対話型の学習が教科書上において提示されているのであるが、このことは従来あまり知られていない。本研究は日本の漢文教育に最適化された関連教材を開発しようとするものであるが、そこに中国の古典教育との比較という観点を導入し、その先進性や柔軟性を応用する余地があるのではないかという着想に至った。

2. 研究の目的

学習者主体の深い学びが求められる昨今の状況においては、補助的・発展的な教材や既習教材といった多様な関連教材を利用することが重要と考えられる。ここで、中国の義務教育8年級・9年級および高級中学必修の『語文』教科書(日本の中学2年生～高校2年生の国語に相当。以下、『語文』教科書と称す)に目を向けると、探究・対話型の学習として、しばしば関連教材を利用しながら学習者自身の考えの形成を促し、口頭説明や文章化させる課題が設定されている。

本研究の目的は、こうした中国の古典教育における関連教材の教育的意義を明らかにし、次いで、その知見を活かして日本の漢文教育に最適な関連教材を開発することである。そのために、次のような研究課題を設定した。

- (1) 日中教科書比較研究 中国『語文』教科書を比較対象として
- (2) 日本の漢文教育における関連教材の開発
- (3) 言語教育としての漢文学習の研究

本研究は、以上の課題の研究を進め、日本の漢文教育においても学習者が主体的に古典学習に取り組めるような関連教材のあり方を探らうとするものである。

3. 研究の方法

- (1) 日中教科書比較研究 中国『語文』教科書を比較対象として
中国の古典教育における関連教材の研究

ここでは、まず中国の古典教育における関連教材がどのような教育的意義を持っているのかを明らかにするため、高級中学必修の『語文』教科書(人民教育出版社版)を主な考察対象として、教科書本文と関連教材を利用した課題との関係を調査し、関連教材を利用する意義について分析した。

日中古典教育における関連教材の比較研究

「学習指導要領」においては、解釈を深めるために他の作品などとの関係を踏まえることが求められている。従来の国語教科書においてもこうした観点がなかったわけではないが、そこにどのような特徴があったのかを明らかにするため、中国の『語文』教科書(義務教育8年級・9年級および高級中学必修。ともに人民教育出版社版)における関連教材の比較を通じて、彼我の特徴を分析した。

- (2) 日本の漢文教育における関連教材の開発

本研究は、あくまでも日本の漢文教育に最適化された関連教材の開発を目指すものである。ここで、教科書に採録されることが比較的多い次の教材について、その理解を深めたり学習効果を高めたりするための関連教材を検討した。

杜甫「石壕吏」における関連教材としての王粲「七哀詩」
陶淵明「桃花源記」における関連教材としての「桃花源詩」

- (3) 言語教育としての漢文学習の研究

国語学習における漢文の位置づけに関する研究

我が国の漢文教育について、中国と同様に「学習者の母語に直結する古典語(漢文)教育」という側面を深めて考えるためには、まず我が国の漢文教育を学習者の母語と直結する言語の教育という観点から再検討する必要性が生じた。また、本研究の遂行中に高等学校の教科書が新しいものへと変わったことを踏まえ、我が国の学習者にとって国語学習(学習者の母語と直結したもの)として意義を持ちうる学習が、新たな教科書によって可能であるかどうかを検討した。

漢語構造の学習に関する研究

唐代文学の教材を対象として特に漢語表現と漢詩の対句に関する調査・研究を行う予定であったが、研究の遂行にあたり、「学習指導要領」に基づいた新設科目「言語文化」の教科書を調査する必要が出てきた。「言語文化」の教科書を漢語表現の構造の観点から分析した。また、対句の構造から漢詩の教材を分析し、漢語表現の学習における有用性と問題点を分析した。

4. 研究成果

(1) 日中古典教育における関連教材の比較研究 中国『語文』教科書を比較対象として 中国の古典教育における関連教材の研究(担当:土屋聡)

中国の高級中学必修『語文』教科書(人民教育出版社版)における教科書本文と課題との関係を調査し、関連教材を利用する効果について分析した。その結果、関連教材には教科書本文から出発して読書や学習の幅を広げてゆくという発展的な方向のものもあるが、その一方で教科書本文の理解を深める方向に作用するものもあることが判った。特に後者は学習者に読み取らせたポイントをわかりやすく提示するという効果があり、学習者が自分の力で教科書本文を読解するために必要な視点を提供するものであることが明らかとなった。このことから、関連教材は従来のような教師や指導書の解釈を押しつけるような指導から脱却して、学習者が自分の力で教科書本文を読みこなすための仕掛けとして重要なものと言える。

以上の研究成果は、土屋聡「中国の古典教育における関連教材の意義について その『語文』教科書での利用をめぐって」(『教育実践学論集』第22号、pp.97-108、2021年3月)として発表した。

日中古典教育における関連教材の比較研究(担当:土屋聡)

日本と中国との古典教育における関連教材について比較検討を加え、それぞれの特徴を分析した。特に日本においては、日本文学と比較させる関連教材に特徴があることを明らかにした。その上で、そうした関連教材は漢文そのものの理解を深めることには寄与していないのではないかと、という問題点をも指摘した。「学習指導要領」では他の作品との関係を踏まえた解釈が求められているが、関連教材に対する検討は今後の漢文教育を考える上で益々重要と考えられる。

以上の研究成果は、土屋聡「日中古典教育における関連教材の比較」(『新しい漢字漢文教育』第73号、pp.86-97、2022年11月)として発表した。

(2) 日本の漢文教育における関連教材の開発

杜甫「石壕吏」における関連教材としての王粲「七哀詩」(担当:栗山雅央)

漢詩教材を対象とする関連教材の開発に当たり、主教材に対する比較対象としての関連教材を提示することで、主教材のより主体的学びへとつなげることを目指した。主教材の杜甫「石壕吏」と関連教材の王粲「七哀詩」の主題・構成・表現とを比較した上で、従来の教科書にみえる学習活動への効果について検討した。

以上の研究成果は、栗山雅央「漢文教材としての杜甫『石壕吏』に対する王粲『七哀詩』の活用」(『西南学院大学言語教育センター紀要』第11号、2021年3月)として発表した。

なお、栗山は当初は研究分担者であったが、所属先変更のため研究協力者に変更となった。したがって、本研究へは2020年度のみ参加となった。

陶淵明「桃花源記」における関連教材としての「桃花源詩」(担当:土屋聡)

近年、陶淵明「桃花源記」の読解に際して「桃花源詩」(以下、それぞれ「記」「詩」と略称する)を補助的に利用することを提案する研究があるが、このことについて「詩」がどのような形で「記」に関わっているのかという点を本文に即して検証した。まず、南宋・元時代の諸本における収録状況を調査し、両者の緊密な関係について確認し、次に「詩」と「記」との関連について分析を加えた。その結果、「詩」は推測や想像を交えて桃花源の日常を描くものであり、「記」はその空想の素材という関係が明らかとなった。それは「記」に新しい価値を見出すことでもあり、この点に「詩」を利用する意義があると結論づけた。

以上の研究成果は、土屋聡「『桃花源記』と『桃花源詩』とその関係についての一考察」(『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』第178号、pp.23-30、2021年11月)として発表した。

上記論文を基に、「桃花源詩」が「桃花源記」の読解にどのように寄与するのかという点を明らかにするため、先行事例として中国における「詩」の利用に注目し、「詩」が理想郷のイメージ形成に寄与することを9つの項目にわたって検証した。また、「空想」という共通項によって、他作品との関連性が見出せることをも明らかにした。

以上の研究成果は、土屋聡「空想する『桃花源記』『桃花源詩』とともに読むことの意義」(『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』第179号、pp.65-74、2022年2月)として発表した。

これらの研究成果を踏まえて、「桃花源記」を読む際に関連教材として「桃花源詩」を取り入れた場合、学習者の読みがどのように変化するか、ということを実践的に調査した。44名の調査対象者によるワークシートおよびアンケートの回答を分析した結果、「詩」を読むことは個々の学習者が「記」の作品世界や作者陶淵明の撰述意図をより深く考えることに寄与する、ということが明らかとなった。

以上の研究成果は、土屋聡「『桃花源記』における読みの変化について 関連教材『桃花源詩』の利用とその効果」(『岡山大学国語研究』第37号、pp.13-26、2023年3月)として発表した。

(3) 言語教育としての漢文学習の研究

国語学習における漢文の位置づけに関する研究(担当:奥野新太郎)

新必修教科目である「言語文化」は従来の「国語総合」と比べると、漢文と古文を併せて我が

国の言語文化という一つの枠組みで示している点に大きな特徴がある。その結果、漢文と日本の言語文化との繋がりが、日本語史的及び日本漢文学史的な観点から強調されており、学習者が漢文を日本語との繋がりを意識しながら学習できるような工夫が随所に見られる。それにより、従来よりも学習者にとって国語教育としての意義を実感しやすい漢文教育が可能となっている。「言語文化」の教科書は、従来の漢文教育が課題としていた言語教育という側面、すなわち学習者の日本語能力の向上につながる漢文教育を実現しうる可能性を持つと言える。

以上の研究成果は、奥野新太郎「『言語文化』における漢文教育に関する覚え書き」(『岡山理科大学紀要B(人文・社会科学)』第58号、pp.119-136、2023年1月)として発表した。

漢語構造の学習に関する研究(担当:長谷川真史)

ここでは、「学習指導要領」に基づく新設科目「言語文化」における〔知識及び技能〕の内容の観点から、「言語文化」の各教科書における漢語表現の構造に関する取り扱いに着目し、「言語文化」が漢文教育と現代日本語とを結び付けるに堪え得るものとなっているか調査を行った。その結果、漢語表現の構造についての解説には、小中高校間で一貫性に欠ける部分が見られた。また、教科書「言語文化」に採られた教材を中心に、中高の漢文教育の連結部として有効な教材について、対句の観点から検討し、その有用性と課題とを示した。

以上の研究成果は、長谷川真史「新学習指導要領における高等学校国語科教科書『言語文化』の漢文教材について 漢語表現の構造の観点から」(『中国文学論集』第51号、pp.113-129、2022年12月)として発表した。

(1)日中教科書比較研究 中国『語文』教科書を比較対象として および(2)日本の漢文教育における関連教材の開発は、本研究の中核を成す部分であり、新型コロナウイルスの流行のために中国における調査を断念したものの、日本でも入手可能な人民教育出版社版の教科書に基づいて調査・分析を進めた。関連教材自体を対象とする研究は、いわゆる教科書教材の研究に比べると、日中を問わずまだまだ少ない。しかし、「学習指導要領」では、古典の特性として「他の作品」との関係の中で作品を理解する必要性が明示されている(『高等学校学習指導要領解説国語編』言語文化、p.130、古典探究、p.261)。関連教材の研究とはまさにこの点に関わる研究であり、本研究では関連教材が学習者の主体的・対話的な漢文学習にどのように寄与するか、そのメカニズムを明らかにするという成果をあげた。

(3)言語教育としての漢文学習の研究は、日本の漢文教育を学習者の言語文化と結びつける言語教育として構築するために何が求められているのか、そしてそれは新しい「言語文化」の教科書においてはどのように実現されているのか、或いはどのような課題を残しているのか、という観点からの研究である。これは本研究の当初の計画には無かったテーマではあるが、研究分担者諸氏との議論の中で、中国の古典教育の優れた部分を日本の漢文教育に取り入れるためには研究の必要があるのではないか、と合意したことである。本研究によってこの点の解明が進んだことは、今後の日中教育比較研究に対して一定の示唆を与えるものと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 土屋聡	4. 巻 178
2. 論文標題 「桃花源記」と「桃花源詩」と その関係についての一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡山大学大学院教育学研究科研究集録	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 土屋聡	4. 巻 179
2. 論文標題 空想する「桃花源記」「桃花源詩」とともに読むことの意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡山大学大学院教育学研究科研究集録	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 土屋聡	4. 巻 22
2. 論文標題 中国の古典教育における関連教材の意義について - その『語文』教科書での利用をめぐって -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育実践学論集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 栗山雅央	4. 巻 11
2. 論文標題 漢文教材としての杜甫「石壕吏」に対する王粲「七哀詩」の活用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西南学院大学言語教育センター紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋聡	4. 巻 73
2. 論文標題 日中古典教育における関連教材の比較	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 新しい漢字漢文教育	6. 最初と最後の頁 86-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋聡	4. 巻 37
2. 論文標題 「桃花源記」における読みの変化について 関連教材「桃花源詩」の利用とその効果	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岡山大学国語研究	6. 最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥野新太郎	4. 巻 58
2. 論文標題 「言語文化」における漢文教育に関する覚え書き	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岡山理科大学紀要B (人文・社会科学)	6. 最初と最後の頁 119-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷川真史	4. 巻 51
2. 論文標題 新学習指導要領における高等学校国語教科書「言語文化」の漢文教材について 漢語表現の構造の観点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国文学論集	6. 最初と最後の頁 113-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 長谷川真史
2. 発表標題 なぜ漢文を学ぶか？ 中国古典研究と漢文教育のあり方について
3. 学会等名 学芸国語国文学会（東京学芸大学）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川真史ほか
2. 発表標題 遠隔授業における古典・語学 実践報告と展望
3. 学会等名 中唐文学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 土屋聡
2. 発表標題 日中古典教育における関連教材の比較
3. 学会等名 全国漢文教育学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	栗山 雅央 (Kuriyama Masahiro) (20760458)	西南学院大学・国際文化学部・助教 (37105)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長谷川 真史 (Hasegawa Masashi) (40706769)	東京学芸大学・教育学部・研究員 (12604)	
研究分担者	奥野 新太郎 (Okuno Shintarou) (60706761)	岡山理科大学・教育学部・准教授 (35302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関